平田ロータリークラブ週報

発行日　毎週木曜日

平成18年３月2日

No.1554

超我の奉仕

国際ロータリー会長　カール・ヴィルヘルム・ステンハマー
第2690地区ガバナー　延　原　　正

〈事務局〉
島根県出雲市平田町2280-1
平田商工会議所２Ｆ　ＴＥＬ 0853-63-3232
ＦＡＸ 0853-63-5365
A.M. 9:00 ～P.M.5:00　土・日曜・祝祭日休局

会　長　大谷　孝　　副会長　加藤喜久
幹　事　内田節夫　　会　計　加藤　昇

例会プログラム

例　会	卓　話　者	演　題
第１５５４回	会員　石倉正美	シベリア抑留の話　Part 2
第１５５５回	ＮＨＫ松江放送局長　山形良樹様	新放送サービス
第１５５６回	ゲスト	

出　席　報　告

会員数	出席者数	欠席者数	出席率	前回補正率
５０	３９	１１（１）	７９．５９	８６．００

欠　席　者　　大谷・加藤喜・大島卓・原田・金田・吾郷・持田・原光・園・園山（杉原）
来　訪　者　　周藤（出雲中央）
Ｍ　　Ｕ　　3/1平野（平田ＲＡＣ）

幹　事　報　告

１．例会変更
　○大社ＲＣ　3/22(水)　創立45周年記念例会　18：30～　於）ゆたか亭
　　ビジター受付　11：30～12：30　事務局
２．岡山備南ロータリークラブより創立30周年記念誌をいただきました。

委　員　会　報　告

＜プログラム＞
　○3月例会プログラム予定表配布

ス　マ　イ　ル

周藤（出雲中央）　久しぶりに訪問しました。

3月16日例会受付当番	佐々木　哲　也　・　原　田　一　雄　・　平　野　順　一

★松江南クラブ（月）
★出雲中央クラブ（月）3/20
★松江しんじ湖（火）
★出雲クラブ（火）
★松江クラブ（水）3/29
★大社クラブ（水）3/22
★平田RAC（第1・3水）
★松江東クラブ（木）
★出雲南クラブ（金）3/10(休)

前年度会長挨拶

3月に入り桜の開花予想が発表されました。然しここ数日寒い日が続いています。風邪など召されないようねがいます。

先日イタリア、トリノでの冬季オリンピックが終了いたしました。日本は当初の目標を下回りましたが、フィギュアスケートの荒川静香選手の金メダルに大いに盛り上がりました。華やかなスポーツの祭典オリンピックが開催されている同じとき、イラクではイスラム教のシーア派とスンニ派による報復テロ合戦により多数の死者がでました。暖かい部屋でオリンピック観戦をしながら感じたことは、多数の犠牲者を出した先の大戦後61年、戦争の無い日本で育ち生活できた幸せを感じつつ、何時までもこの平和な日本が続いてほしいと願いました。

スピーチ

シベリア抑留の話　Part2

会員　石倉正美

戦後60年。平和の喜びを感じている現在です。しかしそのうらには多くの尊い犠牲者のあった事を忘れてはなりません。第二次世界大戦の死亡者は世界で3番目に多い150万6千人との事です。又シベリアに於ける死者は6万人と言われています。

岸壁の母の主人公である端野いせさんの長男伸二君も石頭士官学校の同期生で馬刀石の対ソ戦で一緒に戦った戦友ですが、母いせさんの願いも空しく生死不明のままです。

昭和20年10月末、ソ連当局の帰国の欺瞞の命により連行された所がシベリアの地であった。

帰国する迄の約4年のこの間で最も悲しい事は、最初についたクリドーム105分所である。この分所は小さな作業大隊の分所であり、最初の作業は病院建設で古い建物の天井、壁、床の修理である。ところが建物の修復も出来ない内から周辺の収容所から死直前の患者が続々と運びこまれ薬はなく医者はいない。次々と死亡してゆき、その遺体は古い馬小屋に一糸まとわぬ全裸の状態で積み重ねとなる。零下30度の酷寒。30分もしない内に完全な冷凍人間となる。非道なとりあつかい。まさに皮をはぎとられた冷凍動物である。

そこで我々建設班の一部は所長に交渉の上遺体埋葬班を編成。橇で全裸の冷凍人間を4〜5体積み1粁位はなれた小高い中腹まで運び埋葬する。この埋葬にもノルマ（一定の基準量）がある。しかし岩の様な凍土規定の墓穴は掘る事が出来ず分解して埋めざるを得ない。埋めると言うより盛土でノルマの完成とす。全裸のまま、しかもお経を読む事もなくまさに地獄の光景。「明日は我が身か」と日々悲しみの生活であった。全裸の埋葬、お経の件、所長に二度三度交渉するも完全否定。何が理由かは不明であるが埋葬の班すべて22年の春、エズベスト・コーワヤ104収容所に移動となる。この収容所は800人位の大きな労働大隊であり、鉄道建設、伐採作業、その他大変な重労働であり、ノルマのきびしい収容所であり堪え忍んだ2年間である。昭和24年春、イマン15の中継収容所に移りもっぱら洗脳教育であり、同年6月頃ナホトカの送還収容所に移る。ここには3つの収容所があり第1、第2は身の廻りの検査、洗脳教育であり、反共、反ソの言動がわかるとシベリアへ逆送される。第3収容所にて初めて帰国の手続となる。

24年7月待望の乗船。汽笛が鳴る。甲板上でナホトカの山々が遠のくと共に涙が止めどなく流れ出る。

シベリアでの苦労の涙か帰国の嬉し涙か凍土に眠る戦友への涙か。60年たった今でもあの涙は忘れる事が出来ない。友よ安らかに眠り給え。